



2026(令和8)年 年頭のごあいさつ

理事長 木曾 誠一

新年明けましておめでとうございます。

京都薬科大学の関係者の皆様方には健やかに新春をお迎えになられたこととお喜び申し上げます。

昨年は何と言っても、関西万博に席卷された年でした。当初はそれほど人気が高くなかったものの、あれよあれよという間に人気が高まり、最後は入場予約が出来ない人が140万人にも上る事態になりました。訪れてみれば、感動してリピートする人も多く、自分が経験して初めてほんとの価値を知るのがよく分かりました。また、MLBの大谷選手の活躍も日本人の熱狂を生み出しました。同じ日本人が世界トップの舞台で活躍するのを見て、心躍るのは当然の話ですが、それよりも感動したのが、彼らが常に仲間をリスペクトし、ミスをしてしても決して非難したりせずに、いつも精神的にサポートとし、チームのために出来る最大限のことをなそうとしていたことです。京都薬大の教職員もそんなチームを目指したいと思います。

さて、京都薬大では学びの環境整備・強化が進められています。新校舎となる飛翔館の工事は2月の竣工に向けて着々と進んでおり、そこには450名収容可能

な大講義室や自由な学びの場となるラーニングコモンズ、そして通路には憩いの場となるプロムナードなど、学生達がワクワクするような場所にすべく取り組んでいます。また、大学の東門前の歩道を旧三条通りまで伸ばして、より安全な通学環境とすべく計画を進めています。このようにハード面での充実を図ると共に、教員や事務職員の採用促進などソフト面での強化も図っております。また、学外との連携による新たな価値創出も模索しています。昨年9月に高知県と連携協定を締結し、地域医療人材の育成に貢献するスキームを作りました。また、3月に欧米やアジアのアカデミアとの国際連携の一環としての国際シンポジウムを開催しました。特に研究においては、様々な連携によって、「強み」と「強み」を組み合わせることによる競争力強化や「知」と「知」を組み合わせることによるイノベーションの創出が鍵となっており、今年は様々な連携をより強化・推進していきたいと考えています。

昨年の成果ですが、国家試験合格率は全体で84.8%、新卒で90.9%、ストレート合格率は75.6%と私学上位の成績となり、特にストレート合格率は私学4

CONTENTS

■ ご挨拶

2026(令和8)年 年頭のごあいさつ 理事長 木曾 誠一	1
新年にあたって 学長 赤路 健一	2
新任のご挨拶	3

■ 特集

京都薬科大学×京薬会 大学と京薬会の連携強化に向けて～座談会～	6
------------------------------------	---

■ 報告

2026年度学校推薦型選抜結果	12
受賞・掲載	18
京都薬科大学奨学寄附金芳名録	20

■ コラム

私の薦める、私の一冊	10
卒業生からのメッセージ	12
十人十色「スノーボードと山に魅了されて」	13
学生相談室より	17

■ イベント

2025年度京薬祭開催報告	8
---------------	---

■ お知らせ

人事	4
2025年度動物慰霊祭	4
第111回薬剤師国家試験の概要	4
京薬会だより	5
Library News	11
事務局お仕事紹介	11
生涯教育センターからのお知らせ	14
2025年度後期試験等日程	16
単位互換制度～他大学の科目・講座を受けてみませんか～	16

位となっています。また、就職は希望者ほぼ全員が就職し、その内容も国公立と同様、企業、病院、薬局・ドラッグストアのバランスが取れた構成比率となっています。一方、偏差値も試験方式により差はありますが、一般後期では55となりました。このように学生諸君の頑張りと保護者の皆様、教職員のサポートにより大きな成果が生まれています。今後、これら努力を積み重ね、私学薬学トップの地位を固めると共に、国立大学薬学部に伍する大学にしていきたいと考えています。

さて、京都薬大は今年で142年となります。これまで多くの卒業生を輩出し、様々な分野で活躍されています。その卒業生の同窓会組織である京薬会は我々の大切なパートナーです。京薬会との連携強化は私が就任時より掲げてきたものであり、今、具体的な形で連携強化が図られています。今年は初めての試みとして、関西の薬剤部長の方々が集まり、シンポジウムが開かれます。そこでは病院薬剤部の課題などが議論され、在学生にとってはリアルな現場に触れることが出来る機会になると考えます。このように卒業生や在学生が集い、情報交換が出来る場の提供や新しい知識に触れられる学びの場作りなど、様々な機会を作りたいと思っています。

ここで、コンプライアンスの問題にも触れておきたいと思います。倫理・コンプライアンスは医療関係者がまず学び、会得していくべきものであり、倫理やコンプライアンスなくしては、教育や研究も成り立ちません。医療の原点は相手を思いやる気持ち、利他の心にあると考えます。それがあれば、倫理・コンプライアンスを違えることはないと思います。それが、我々が掲げる「Science、Art、Humanityに優れた薬学人財を育成する」ことに繋がっています。大学という教育・研究の場は倫理やコンプライアンスの上に成り立っていることを認識頂き、教職員、学生全ての関係者が自らの言動を今一度確認頂きたいと思います。

今年の干支は丙午（ひのえうま）。丙は火の要素を持ち、太陽のエネルギーなどを表し、また、午も馬を表すと共に火の要素を持ちます。そのため、丙午の年はエネルギーに満ち、新しい挑戦や発展に最適な年であり、まさに変革にチャレンジする我々を後押ししてくれるような年であると感じます。

今年も皆さんとともにチャレンジを続け、京都薬科大学の発展と成長に取り組んで参りたいと思いますので、何卒これまで以上のご支援・ご協力をお願い致します。



新年にあたって

学長 赤路 健一

京都薬科大学創立142年目の新しい年が始まります。4月からは新築の飛翔館も利用できるようになり、学内の環境整備に一つの区切りがつく年になります。飛翔館4階には450名まで収容できる大講義室が設置され、2階には新たに学生実習室が整備されます。これらの教育関係施設を効率よく運営するため、飛翔館1階に学生実習支援センターと薬学教育研究センターが移設されます。さらに、飛翔館3階にはこれからの学内外との共同研究の核となるシナジー研究センターが配置されます。これらの環境整備と合わせたラーニングコモンズ施設等の新設による新しい環境での新学期が始まる年として、2026年度は京都薬科大学にとって一つの節目となる年になります。新カリキュラムに基づく対面を基本とする講義や実習、課外活動がより良い環境で行えるようになり、キャンパス生活がより充実しお互いのコミュニケーションもより緊密になると思います。薬学を含めた医療界に貢献するための学修がより効率的になり、皆さんにとって京都薬科大学が医療界の最前線に立つための研鑽を積む最適の場となることを目指しています。

京都薬科大学は、大きく変化しつつある医療界で薬の専門家として様々な領域で社会に貢献できる薬剤師の育成に努めてきました。薬学を含めた医療界ではDX（digital transformation）やAI（artificial intelligence）の利用が急速に進み、日々の診断や遠隔

地医療に取り入れられています。特に、最近の生成AIの進歩には目を見張るものがあります。このようなデジタル・AI環境の整備が後戻りすることはほぼ考えられず、今後もどんどん多様な形で取り入れられていくでしょう。これからの医療界の現場で活躍できる薬剤師には、このような新しいツールと環境の変化に対応しつつヒトでしかできない患者さんに寄り添った対人業務や情報活用に携わることが求められています。また、新しい創薬開発についてもAIの導入が急激に進行するとともに、新たな課題が明らかになりつつあります。たとえば、近年開発が進んだ高分子蛋白製剤の使用に際しての薬効/副作用のバランスや経済的効率性に関する懸念が指摘されつつあります。このような動向を踏まえ、新たな生体成分に範をとった中～低分子新薬の開発が進みつつありますが、その治験や新しい薬剤についての行政の役割にも変化が起ることが容易に予想されます。このような変化に対応するためには、日々更新される医療の変化・動向に薬剤師としてどのように貢献できるのかを自ら判断し自分の言葉で表現することが必要になります。基本に忠実でありつつ変化に応じた柔軟な対処が求められています。

京都薬科大学では、このような大きな変化に対応できる薬剤師育成に適したカリキュラム整備を進め、新しい薬学モデルコアカリキュラムを基礎とする本学独自の新しいカリキュラムを実施しています。このカリキュ

ラムでは、6年間での学修・卒業と薬剤師国家試験合格を大前提として、ゆとりを持った多様な学びを目指しています。新施設を活用しつつ効率的でわかりやすい講義になるように、対面での講義とともにWebをうまく取り入れた中継講義などを利用できるようにしました。さらに、現実の距離を感じさせない新しい通信技術を活用できるような工夫を凝らすように努め、勉学のみならず課外活動を含めたキャンパスライフがより快適になるよう日々更新に努めるようにしています。

医療界においても世界がますます狭くなるとともに変化の速度も加速度的に速くなり、従来の枠やセクショナリズムにとらわれない柔軟な思考力と行動力が

ますます必要とされています。このような変化への対応には卒業後の経験が必要不可欠ですが、京都薬科大学での教育・研究での学びが想定外の事態にも柔軟に対応できる基礎的能力を磨くことに役立つはずです。このような教育・研究の実践のために教職員が不断的な努力を継続することを目標に置いた新たな1年したいと思います。

これからの薬学領域のリーダーを目指す皆さんにとって、新しい年が変化に満ちた実り多い1年になることを願っています。本年が、学生・教職員の皆様にとって素晴らしい年になることを祈念し、年頭の挨拶とさせていただきます。

新任のご挨拶



基礎科学系
数学分野

なかぐち えつし
教授 中口 悦史

2025年10月1日付で数学分野教授に着任いたしました。私は1993年に大阪大学工学部を卒業、1998年に博士号を取得し、同年から大阪大学に助手として勤めた後、2009年4月に東京医科歯科大学教養部准教授に異動し、2022年10月に教学IR担当として大阪大学に戻るまでの間、医学・歯学・保健学・口腔保健学分野の数学・統計学・情報科学に関する教育を担当

しておりました。また学生の頃から一貫して応用数学・数理解析の分野、特に薬物動態等の薬学分野にも関連の深い微分方程式の数理解析と数値解析に関する研究に従事しております。

このたび縁あって京都薬科大学に職を得て、再び医療系分野の数学・統計学に関する教育に携われることは、感慨深く、幸運なことと思っております。これまでの経験を顧みながら、薬学分野における数学・統計学の役割を改めて学びつつ、本学学生の教育に尽力する所存です。みなさま方の御指導御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



薬学教育系
薬学教育研究センター

やまき こうや
教授 八巻 耕也

2025年10月1日付で、薬学教育研究センター教授を拝命いたしました。私は1997年に東北大学薬学部を卒業後、同大学院薬学研究科に進学、マクロファージと炎症に関する研究で2002年に博士（薬学）の学位を取得しました。神戸薬科大学薬理研究室に助手として採用され、その後、准教授としてマウス新規アレルギーモデル構築や、アレルギーに

対するIgAモノクローナル抗体療法の開発に向けた研究を行ってまいりました。並行して、薬学6年間での学びを初年次に体感する分野横断的アクティブラーニング科目の構築や実施、学習意欲を高める理論であるARCSモデルの薬学教育における実践についても研究いたしました。

本学ではデータ分析を活用した個別指導・カリキュラム改善により、学生の皆さんの学修が効果的に進むように尽力してまいります。教職員の皆様と連携して本学の発展に貢献したいと考えておりますので、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



事務局
庶務課

事務員 清水 ほのか

2025年11月1日付で庶務課へ配属となりました。この場をお借りして皆さまへご挨拶申し上げます。

前職では、公的機関にて庶務業務や企業訪問による書類調査業務に従事してまいりました。本学では、学生・教職員の皆様が安心して学び、働ける環

境づくりに微力ながら貢献できればと願っております。大学運営を支える基盤的な役割を担うことを自覚し、誠実に業務へ取り組む所存です。今後は入学式や卒業式の運営にも携わる予定をいただいております。大学の大切な節目に関わる責任とやりがいを感じております。

休日には愛犬と散歩をしたり遊んだりする時間を大切にしており、日々の活力や心の安らぎにつながっています。

新たな職場での出会いを大切に、皆様のお力になれるよう努力してまいりますので、何卒ご指導ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。

News 人事

採用

基礎科学系数学分野

教授 中口 悦史

薬学教育系 薬学教育研究センター

教授 八巻 耕也

(任期：2025. 10. 1～2035. 9. 30)

事務局庶務課

事務員 清水ほのか

(2025. 11. 1付)

退職

事務局庶務課

係長 阪 幸子

事務局教務課

主査 神田 悟

(2025. 9. 30付)

News 2025年度動物慰霊祭

庶務課

10月28日（火）に、本校地の動物慰霊碑前において、2025年度動物慰霊祭を執り行いました。当日は、当麻寺の増田宗雄住職をお迎えし、読経をいただきました。

木曾理事長、赤路学長、西口副学長、秋葉バイオサイエンス研究センター長をはじめ職員、多くの学生が次々と焼香をし、日頃教育・研究に貢献をした多くの動物達に感謝と慰霊の念をこめて冥福を祈りました。

News 第111回薬剤師国家試験の概要

学生課

第111回薬剤師国家試験は、次のとおり実施されます。

試験日 2026年2月21日（土曜日）及び同月22日（日曜日）

試験地 北海道、宮城県、東京都、石川県、愛知県、大阪府、広島県、徳島県及び福岡県

試験科目 [必須問題試験]

物理・化学・生物、衛生、薬理、薬剤、病態・薬物治療、法規・制度・倫理、実務

[一般問題試験]

・薬学理論問題試験

物理・化学・生物、衛生、薬理、薬剤、病態・薬物治療、法規・制度・倫理

・薬学実践問題試験

物理・化学・生物、衛生、薬理、薬剤、病態・薬物治療、法規・制度・倫理、実務

合格発表 2026年3月25日（水曜日）午後2時に厚生労働省ホームページの資格・試験情報のページにその受験地及び受験番号を掲載して発表されるほか、合格者に対して合格証書が郵送されます。

* 詳細は、厚生労働省ホームページ「第111回薬剤師国家試験の施行」をご参照ください。

https://www.mhlw.go.jp/kousei_roudoushou/shi_kaku_shi_ken/yakuzai_shi/

1. 2025年度学内駅伝大会への協賛

気候変動もあってか秋を彩る季節感が薄らぐなか、紅葉深まる晩秋山科疎水沿いをタスキでつなぐ恒例の学内駅伝が11月29日（土）に学生自治会主催、京薬会協賛、陸上競技部運営により参加27チーム148名のもと実施されました。レースは佐藤学生部長の号砲に一齐に選手が飛び出し、藤田0個人の部チームが総合優勝の栄誉を勝ち取りました。表彰式では、陸上競技部OBでもある平松京薬会長から参加者を労う言葉とともに京薬会賞を贈呈しました。レース後に振舞ったぜんざいは今年も好評で、疲れた選手の心身をほっこりと癒してくれました。



スタートの様子



ぜんざいを提供しました

2. 愛学躬行歴史資料室

★基礎演習で歴史資料室を見学、京薬の歴史を学ぶ

10月14日、細木誠之准教授（病態生理学分野）担当の基礎演習で、1年次生13名が、歴史資料室を見学し、室長が解説を担当しました。事前にQ&A形式で「京都薬科大学の歴史」を作成して演習生たちに配布しました。

★「薬用植物園（薬草園）開園100周年」のミニ展示とオープンデー

本年は、1925（大正14）年に薬草園が開園して100周年になるので、オープンデーの開催に合わせて10月20日から26日まで、「薬用植物園（薬草園）開園100周年」のミニ展示を、歴史資料室の外側廊下を中心に行いました。



歴史資料室見学の様子

★京薬祭で地域交流サークルME-MEの写真展に協力

11月1日・2日の京薬祭で学生の地域交流サークルのME-ME（ミーム）が山科の歴史に関する写真を展示するとともに、昭和のレコードをターンテーブルで流して鑑賞する企画を運営されました。歴史資料室も写真を提供するなどの協力をしました。

京都薬科大学×京薬会

大学と京薬会の連携強化に向けて～座談会～

2025年9月26日（金）に本学と京薬会による連絡協議会を初めて開催し、その後京都薬科大学と京薬会の連携強化に向けた座談会が行われました。座談会には本学から木曾理事長、京薬会からは平松会長が出席され、私が司会進行を務めました。今後の目標や卒業生との連携について感じていること、そして最後にメッセージをいただきました。

進路支援部長 藤室 雅弘

Feature article.

直前に行われた連絡協議会について目的を教えてください

平松会長：理事長・学長には各地の支部総会へお越しいただき、卒業生にとって母校が身近な存在になっていると感じています。京薬会として大学の方針に協力し、お互いに活用できるような組織を作っていきたいと思っており、そのために連絡協議会の設置を提案させていただきました。本日開催されたことがまずはその第一歩だと感じています。

木曾理事長：今までは大学と京薬会がそれぞれで活動しており、その力は分散されていました。お互いに協力することで本学のブランド化に大きな力を発揮できると思っています。目標やそのためのアクションを明確にすることで両者が協同して大学の価値向上に取り組んでいけるのではないかと考えています。



座談会の様子

（奥：平松会長、左：藤室進路支援部長、手前：木曾理事長）

卒業生との関わりについて

木曾理事長：卒業生に協力していただくためにはまずはネットワークが必要ですし、よりダイナミックに相互に交流ができるような組織にしていきたいですね。卒業生同士の連携にもつながり、様々なチャンスが生まれるかもしれないですし、本学と京薬会が両者Win-Winになるよう協力していきたいと思っています。

平松会長：京薬会は80年以上の歴史があり、全国に33の支部を持っています。本学で学んだことを活かして現場で経験を積んでいる卒業生が全国のいろいろな職種で活躍しておりますので、卒業生が持っている力をうまく掛け算してより広く深く情報交換できるような場を作っていきたいですね。

大学と京薬会はどのように連携していくのか

木曾理事長：大学からはハード面、ソフト面での提供が必要だと考えています。例えば、多種多様な現場で活躍している卒業生と在学生の交流、講演会、勉強会などを開催する際に会場として提供するということも検討可能です。卒業生の情報に関しては個人情報の制約などもきちんと対応しながら、卒業生とのネットワークを構築し、また全国の支部総会が盛況になるようにぜひ企画していただきたいです。

平松会長：大学として協力くださるとのことありがとうございます。そのように言っていただけるととても心強いです。京薬の卒業生は企業や公務員、病院、薬局など多種多様なフィールドで活躍されており、京薬会として「ふるさと実習」を継続して組織として受け入れることができる体制を整え、ぜひ在学生の皆さんに知っていただきたいと思っています。また、様々な講演会やイベントを開催しているので、まずは学生の皆さんに知ってもらい、参加してもらえよう大学にも相談しながら実行していきたいと思っています。ぜひ大学からも京薬会にご意見をいただいて、お互いの目標に向かって一緒に行動していければと思っています。

京薬会の今後の活動について

平松会長：京薬会では2025年7月には京薬会ビジョンを策定し、会員同士のコミュニティ形成にむけた「京薬会リンク」も立ち上げてこれらを柱にして活動しています。特に若い年代の卒業生や在学生にも京薬会のことをもっと知ってもらえるようイベントを開催していきたいと思っています。また、コミュニティ等の情報交換の場を提供し、現場で活躍する卒業生から現状を聴く機会を通して、在学生の就職支援にもつながるのではないかと感じています。

木曾理事長：ぜひ活躍されている卒業生の皆さんとのコミュニティを形成していただき、学生がアクセスできるようにすることで、さらにそれが卒業生の価値向上にもつながると思います。本学の在学生さらに教員、そして卒業生がお互いにチャンスを生み出すことができるような機会を作っていきたいと思っています。



平松会長

未来へ向けたメッセージ

平松会長：京薬会リンクの中でもいろいろな業種があり、すでにコミュニティができつつあります。大学側からこういう情報が欲しいという注文をいただければ、提供できる情報もありますし、在学生に対する就職支援にも協力できます。OB・OGの交流会などもこれから具体的に大学へ相談させていただき、協力しながら実現していきたいと思っています。

木曾理事長：人が持つパワーは大きいので、京薬会リンクで卒業生を集めてもらうことが非常に重要になると考えています。そのパワーが大学にとっても大きな力となりますし、コミュニティの形成とそこから卒業生の知識やノウハウを在学生に伝えることができるような場を一緒に作っていききたいですね。



木曾理事長

最後に卒業生へ向けて

木曾理事長：本学の価値向上のためには国家試験や偏差値、就職率が非常に重要であり、特に就職先は充実したものにしていきたいと考えています。将来の幹部になるような人材を育て、努力を継続しながら創立150年の時には私立薬学ナンバーワンになることを目指したいと考えており、学生の力がメインになりますが、卒業生のサポートも必須となります。大学の価値向上と優秀な薬学人材の輩出につなげるため、ぜひご協力をお願いします。

平松会長：大学では最先端の技術や学問を学生に教えており、卒業生は現場で着実に力をつけています。お互いの持っているパワーを掛け算して、より深く広くネットワークづくりができるよう取り組んでいきます。大学と協力して組織体制を強化していきたいと考えておりますので、ぜひご協力をお願いします。



■ 京都薬科大学 事務局からのお願い

卒業生の皆様とのネットワークを構築するために、卒業生個人情報登録及び使用同意の確認を進めております。下記URL又は右側の2次元コードから登録をお願いいたします。

URL : <https://forms.office.com/r/gFg60y8uCe>

ぜひご協力くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。



学生課

支えと共に歩んだ京葉祭

本年度の京葉祭実行委員長を務めさせて頂きました西川です。今年の学祭を無事に終えることができ、大変嬉しく思います。振り返ると、改めて周りの方々に支えられていることを実感する場面が多くありました。準備期間から当日まで、実行委員の仲間をはじめ、先生方、協賛企業の皆さま、地域の皆さまに多大なお力添えをいただき、心より感謝申し上げます。

今年は、これまでの京葉祭の良さを受け継ぎながら、新たな挑戦にも力を入れました。特に大きな取り組みとして、コロナ禍以降実施できていなかった“芸人さんの出演企画”を実現できたことです。出演者の選定からスケジュール調整、ステージ進行、会場の導線づくりに至るまで初めてのことばかりで、多くの不安もありました。しかし、当日は想像していた以上に会場が笑いに包まれ、年齢を問わず多くの方に楽しんでいただくことができました。京葉祭に新しい「楽しさの形」を加えることができたと感じており、今年の大きな成果のひとつです。

また、アーティストライブに関しても、告知方法の工夫や警備体制の見直しに取り組み、安全にイベントを運営できるよう尽力しました。規模の拡大だけでなく、来場者が安心して過ごせる環境づくりを重視したことも、本年度の大事な取り組みとなりました。

さらに、薬学部らしい取り組みとして厚生労働省、京都府主催「薬物乱用防止運動京都大会」への開催協力をしました。楽しさだけでなく薬学部らしい学びの要素も盛り込むことができたと感じています。

今年のテーマ「彩」は、学祭全体を通して強く感じられるものでした。各企画や展示の工夫はもちろん、学生だけでなくご来場頂いた一人ひとりの表情や熱量が会場

にしかわ さや
実行委員長 西川 沙耶

を鮮やかに彩り、まさにテーマにふさわしい二日間となったと感じています。また、開催前日に実施した運動会は、学年、部活の壁を越えた交流を深め、翌日の京葉祭に向けて会場全体の一体感を高める良いきっかけになりました。

準備期間中、同じ実行委員の仲間たちの行動には、何度も支えられ、その存在が私自身の大きな励みとなりました。一人では決して成し遂げられなかったことも、仲間の協力があつたからこそ実現できたのだと深く感じています。

最後になりましたが、今年の京葉祭が無事に開催できたのは、関わってくださったすべての皆さまのおかげです。皆さまからいただいたご協力と温かいお力添えに深く感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



実行委員会メンバー

想いをつなぐ京葉祭

今年度、副実行委員長を務めさせていただきました服部です。振り返ると、今年の京葉祭も多くの方々のご協力のもと無事に開催することができ、たくさんの来場者の皆さまに楽しんでいただけたのではないかと感じております。また、当日来場して下さった方々の笑顔や楽しそうな姿を目にして、私自身も大きな喜びと達成感を得ることができました。



幹部の仲間たち

はっとり そうた
副実行委員長 服部 壮汰

今年は、数年ぶりにアーティストに加えて芸人の方をお招きするという、新しい試みを実施いたしました。決定当初は、芸人の出演に対してどの程度の集客が見込めるのか不安もありましたが、当日は想像をはるかに超える多くの方々にご来場いただき、会場の盛り上がりを感じることができ、とても嬉しく思いました。また、ヤングスキニーさんという昨年に引き続き著名なアーティストをお迎えでき、来場者の皆さまに素晴らしいパフォーマンスをお届けできたことも大きな喜びでした。

私自身の主な役割は、幹部および各企画チームのサポート業務でしたが、後輩たちが私の名前を呼んで頼ってくれたり、楽しそうに活動している姿を見るたびに、昨年度先輩方が私たちにしてくださったことを、今度は自分たちが次の世代に繋げることができていると実感し、感慨深い気持ちになりました。運営の中心として関わる中で、仲間同士の支え合いや信頼関係の大切さを改めて感じる一年でもありました。

また、今年度の京葉祭は天候にも恵まれ、屋外企画

を存分に実施することができました。昨年はあいにくの雨で屋内開催となったため、特に1・2年次生にとっては初めての屋外企画となりましたが、それにもかかわらず各企画が大きな成功を収め、多くの笑顔が見られたことを非常に嬉しく思います。新しい環境の中で一人ひとりが責任を持って取り組み、柔軟に対応していた姿はとても頼もしく感じました。

最後になりましたが、京薬祭の開催にあたり、多方面

でご尽力いただいた関係者の皆さま、協賛企業の皆さま、そして来場して下さったすべての方々に、心より感謝申し上げます。皆さまの支えがあってこそ、今年も無事に京薬祭を成功へと導くことができました。来年度以降も、京薬祭がさらなる発展と魅力ある行事として続いていくことを心から願っております。今後とも変わらぬご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

たくさんの人に支えられた京薬祭

文化部長 ^{きむら} 木村 ^{りの} 理乃

今年度、文化部長を務めました木村です。私の主な役割は、イベント会社との調整を中心とした京薬祭全体の運営でした。今年は長く関わっていただいていたイベント会社が変わり、ステージの仕様から当日の動きまで、実質“1からの見直し”が必要な一年でした。今までと同じやり方が通用しない場面も多く、毎回の準備や確認作業には戸惑いもありましたが、企画が少しずつ形になっていく過程には、新しい手応えも感じられました。

今年度の大きな柱になったのがアーティストライブ企画です。出演していただいたのは、若い世代から人気を集めるヤングスキニーさん。昨年度以上の動員を目指し、チケット販売やPR方法についても、新しい体制の中で一つひとつ組み直しました。試行錯誤の連続でしたが、当日多くのお客様が会場を埋め尽くし、ライブが始まった瞬間の歓声を聞いたときには、この一年の努力が報われたような気持ちになりました。

また今年は、コロナ禍を経て初めて「よしもと芸人お笑いライブ」を復活させた年でもあります。しゅんしゅ

んクリニックPさん、豪快キャプテンさん、ネイビーズアフロさんにお越しいただき、久しぶりのお笑いステージとして準備を進めました。企画段階では集客に対する不安もありましたが、当日は小さなお子さんからご年配の方まで幅広い方々が足を運んでくださり、会場は大きな笑いに包まれました。その光景を見て、「復活させて本当に良かった」と心から感じました。

文化祭の運営は、表舞台の華やかさとは裏腹に、多くの見えない作業や細かな調整の積み重ねによって成り立っています。今年は特に“ゼロから積み上げる”部分が多く、苦労もありましたが、そのぶん自分たちの手で京薬祭を創り上げているという実感のある一年でした。支えてくださった実行委員会の仲間、協力してくださった皆様、そして来場して下さったすべての方に、心より感謝申し上げます。

今年の京薬祭が、誰かにとってあたたかい思い出になっていれば嬉しく思います。ありがとうございます。



アーティストに向けたメッセージボード



お笑い芸人に向けたウェルカムボード

うわの よしお
数学分野 教授 上野 嘉夫

『NHKテキスト・大人の学びシリーズ』

「3か月でマスターする 絵を描く」

柴崎春通（講師）

NHK出版（2025年）

当コーナーの普段の推薦書とは異質ですが、「絵を描いてみたいけれど難しそう」という人や、筆者のように「教室通いに抵抗感あり」の人にお薦めしたい本です。

筆者は、約2年前にふと水彩色鉛筆画を独りで始め、「まあ」満足している現状です。ただ、色鉛筆で大きなサイズは大変で、大きなサイズは絵具かなと思いついたときに、書店で目に入ったのが本書です。水溶性だけれど速乾で重ね塗りOKというアクリルガッシュ絵具の特性を生かして描くテキスト本です。本と並行のテレビ講座での講師と生徒役の楽しげな様子も見て、とりあえず試しました。



本書の一番の長所は、本書ベースで気軽にスタートキットが揃うことです。私の場合、近所の画材店で「NHKの本で描こうと思うのだけど」と話したら、「あの本ね」と店主もご存知で、並べてくれた最小キットから持っていないものだけを買って描き始めました（店の初心者対応はいろいろかも）。本の内容面では、図工・美術で既習の技法や目から鱗の技法まで、楽しく分かり易い実践が工夫されています。個人的に嬉しいのは、子供時代に「図工用の絵具じゃ無理」と言われて落胆した、憧れの油絵調タッチの模倣が紹介されていることです。

さて、テキストを見ながら、好きな題材を描いた首尾はいかに？始めて何枚かは平板な看板調・・・。テキストと録画を見直して水加減に注目し、水少な目で絵具厚めの「塗り直し」ではテキスト提示のナイフ使用にも挑戦し筆致と立体感が増したり、水たっぷりの塗り重ねで低緯度極光の新習作が完成したり、両極端な描き方を実験中です。描き始めさえすれば、気に入るまで手直し可能なところが良いです。「ここはどうすれば？」の再確認にも、テキストは重宝します。

筆者も含めた素人には、描く「階段」の最初の1段がすごく高いと思います。本テキストは、その1段を軽々と上がらせてくれる稀な1冊と思い、本書をお薦めします。あっ、もちろん色鉛筆画も忘れていませんよ。

おおた しゅうと
事務局 情報管理推進室 太田 周人

『世界でいちばん透きとおった物語』

杉井光 著

新潮文庫刊（2023年）

皆さんは読書をするとき、紙の本が好きですか、それとも電子書籍のほうが好きですか。おそらく答えが分かれる質問だと思いますが、私は中立派です。というより、「どちらでもいい」というのが答えです。私は主に小説を読みますが、媒体が何であろうと物語の内容が変わるわけではないので、その本質的な魅力に媒体は関係がないからです。

・・・と、これまではそう思っていました。しかし今回紹介するこの小説に出会ったことで、その認識は覆されてしまいました。なぜなら、この小説は電子書籍にしてしまうと本当の魅力がなくなってしまう、「紙の本でなければならない」ものだからです。



物語の大筋は、ある大御所ミステリ作家の死後、『世界でいちばん透きとおった物語』というタイトルがつけられた未発表の小説の存在が明らかになり、作家の隠し子である主人公が、行方の知れないその遺稿を探すというものです。主人公は、生前の交友関係を当たり手がかりを探すうちに、一度も会ったことのない亡き父について少しずつ知ることになります。そしてついに『世界でいちばん透きとおった物語』に辿り着いたとき、そこに秘められていた真実が明らかになるとともに、この小説自体に隠されていた衝撃の秘密もまた明らかになります。

その秘密こそ、この小説が紙の本でなければならない理由になっています。それが明らかになった直後の驚きは相当なもので、只々「すごい」という感想しかありませんでした。本当は詳らかにその内容を紹介していかすすごいのかを知っていただきたいのですが、ネタバレすると魅力を損ねてしまうので控えておきたいと思います。ただひとつだけお伝えしたいのは、叶うならこの小説を読んでいない状態に戻ってもう一度読みたいと思うくらい、素晴らしい読書体験を得られたということです。

当然この小説は電子書籍では扱われておらず、おそらく映像化されることもないでしょう。紙の本でなければ味わうことのできない衝撃と感動の読書体験を皆さんもぜひご体感いただければと思います。

毎年、京都薬科大学教育後援会より、図書館に置いてほしいと学生の皆さんから希望が寄せられた図書をご寄贈いただいています。今年度は事前に実施された希望図書に係るアンケートの回答数もこれまでで最も多く、読書への高い関心が伺える結果となり、130冊の図書を新たに受入れいたしました。1Fカウンター前の「教育後援会寄贈図書コーナー」には、留学、長期休暇期間中の旅行を考えている方に役立つ海外旅行のバイブル『地球の歩き方』、国内ガイドブック『ことりっぷ』の最新版や文芸書では、第172回直木賞受賞作『藍を継ぐ海／伊与原新』、日本人として初めて英国推理作家協会によるダガー賞（翻訳部門）を受賞した『パパヤガの夜／王谷晶』、映画が大ヒット中の『国宝／吉田修一』といった話題作が並び、早速貸出されています。



教育後援会寄贈図書コーナー

また、アンケートで希望があった『小説みたいに楽しく読める生化学講義／吉村成弘』をはじめとした学術書に類する図書も別途受入れし、1階新着コーナーに配架しています。その他にも皆さんの知的好奇心をくすぐる魅力的な図書がたくさん並んでいますので、通学時間の合間やご自宅での空いている時間にちょっとした息抜きとして読書を楽しむのはいかがでしょうか？ 寄贈図書の一覧は、図書館ホームページ（<https://lib-opac.kyoto-phu.ac.jp/opac/category/5>）でご確認いただけます。借りたい図書が貸出中でも簡単に予約できますので、ぜひ気軽にお立ち寄りください。

本学図書館の開館日程についてはホームページをご覧ください。
<https://www.kyoto-phu.ac.jp/library/>



■第8弾 会計課

こんにちは。KPU_{NEWS}編集委員です。今回は、会計課を取材させていただきました。会計課は、その課名からも業務内容を想像しやすいかもしれませんが、実際にどのような業務を行っているのか紹介します。

会計課は愛学館の7階にあり、計6名の方が働いています。主な仕事内容としては、学費の管理、実習や研究室など大学全体の予算管理、大学が所有する資産情報の管理などがあります。主な仕事内容はこのようなものがありますが、特定期間に行う業務もあるそうです。例えば学祭の期間は、学生課を通して受ける京薬祭実行委員からの税金に関する対応や、模擬店・ステージ上の配線に関する費用の調整などを行うこともあるそうです。このように会計課は、他の部署と連携することも度々あるそうです。大学の出費に関する業務を全て行っている会計課ですが、特に予算の計画や決算の集計が大変とおっしゃっていました。予算については、来年どのような配分でお金を使っていくかを考える必要があるため、10月頃から忙しくなるようです。

このように会計課が行っている多様なお仕事を紹介してきましたが、どの業務もささいな間違いで大きな影響を及ぼすため、これらの業務が滞りなく達成できた時に、特にやりがいを感じるとおっしゃっていました。

最後に、会計課から学生のみなさんに向けてのメッセージを紹介します。

「学生と関わることが少ないので、まず大学で何かを行う際には必ず会計課が関わってくことを学生の皆さんに知ってほしいです。また、皆さんの周りでお金がどのように動いているかに興味を持ってみてください。そして、お金に関して気になることがあれば、ぜひ会計課に気軽に聞きに来てください。」とのことでした。

少しは、会計課について知ることが出来たでしょうか。私たちがほとんど関わる機会がない部署は他にもあるので、今後も取材していきます。ではまた次回。



編集委員による取材の様子

●バックナンバー

- | | |
|-------------------------------|---------------------------------|
| 第1弾 企画・広報課／No. 212（2023年1月号） | 第2弾 進路支援課／No. 213（2023年4月号） |
| 第3弾 情報管理推進室／No. 214（2023年7月号） | 第4弾 教務課・学生課／No. 216（2024年1月号） |
| 第5弾 入試課／No. 218（2024年7月号） | 第6弾 実務・生涯教育課／No. 219（2024年10月号） |
| 第7弾 研究・産学連携推進室（2025年4月号） | |

掲載されているKPU_{NEWS}は本学公式Webサイト（<https://www.kyoto-phu.ac.jp/other/publicity/>）よりご覧ください。

「興味」が進路をつくる

なかたに つねとし

中谷 庸寿



2010年 博士前期課程修了
(衛生化学分野)

慶應義塾大学医学部
坂口光洋記念
エピジェネティクス・
幹細胞生物学講座 准教授

フランスとドイツで計9年半の海外勤務を終え、現在は慶應義塾大学医学部にて研究室を主宰しています、中谷と申します。今回、「卒業生からのメッセージ」に掲載していただくのは2回目となります(初回はNo. 206〈7月号〉でした)。京都薬科大学では学部および博士前期課程を通して、衛生化学分野の藤本貞毅名誉教授、長澤一樹教授に大変お世話になりました。その時から研究の魅力に取りつかれ、気が付けばそれが自分の職業となっていました。

私が入学した当時、薬学部はまだ4年制で、現在よりも進路の選択肢が広がったように思います。せっかく薬学部に入学したのだから薬剤師を目指すのが自然かもしれませんが、私は自分が薬剤師の資格を活かした仕事に就く姿をまったく想像できませんでした。もともと好奇心だけは人一倍強かったと思い

ますが、卒業研究を通じて「研究」という新しい可能性に出会えたことが、今の研究者人生を形づくる大きな転機となりました。

とはいえ、私は「研究や実験ができればどこでもよい」と考えていたわけではありません。これまで一貫して、大学という環境で働くことを希望してきました。正直なところ、研究所や海外で働くほうが大学よりも給与水準は高いのですが、それでも日本の大学に勤めたいと思ったのには、どうしても譲れない理由がありました。それは、大学が「社会に出る前の人を教育する最後の現場」であり、同時に「自分の興味や進路をじっくり考え、選ぶことができる貴重な場」であるという点です。

卒業研究や学びの場では、目の前の単位取得や課題達成だけにとらわれず、自分が本当に興味を持てることを追求してほしいと思います。ごく少数ではあっても、私のようにそれが「人生をかけて取り組む仕事」になる人もいます。学生を指導する立場となった今、今度は私が、そうした学生に新しい可能性や人生を変えるような驚きを体感してもらえよう役割を担っていきたいと、改めて強く感じています。

現在、私の研究室では意欲のある大学院生を募集しています。受精卵の研究に興味をお持ちの方、新しいことに挑戦してみたい方、あるいはまずは見学やお話だけでも聞いてみたいという方も、どうぞお気軽にご連絡ください。

(Email : tsunenakatani@keio.jp)

2026年度学校推薦型選抜結果

Report

入試課

2026年度学校推薦型選抜の内、指定校制は2025年11月10日(月)に、一般公募制は11月15日(土)に実施され、12月1日(月)に合格発表が行われました。

結果は右記のとおりです。

	募集人員	志願者数	合格者数
指定校制	50名	57名	57名
一般公募制	90名	243名	96名

KPU_{NEWS}では、学生・職員の趣味や活動などを「十人十色」と題して幅広く紹介しています。
学生・職員の皆様からの寄稿をお待ちしております！

スノーボードと山に魅了されて

病態生化学分野 6年次生 さはら だいき 佐原 大暉

僕が大学に入学した時はコロナ禍真っ只中で授業はオンデマンド、オンライン、学校に行くことなんてほとんどないし、毎日家にいて時間は有り余っていました。そんな中で高校2年生の時に初めてチャレンジしてからハマっていたスノーボードを本格的に練習するようになり、大学生生活6年間の軸にもなったスノーボードという趣味について紹介します！



「スノボって冬の遊びで1年の生活の軸にならないでしょ」という声が聞こえてきそうですが、実際はそんなことは無く、僕にとっては生活の中で大きな柱になっています。まず、スノーボードを軸に生活するにあたって大きな課題があります。それがお金の面です。交通費、道具、滑走費などなど、費用が莫大になるので、夏の間は学生であればバイト詰めにして冬の資金を作るパターンが主流です。僕も1、2年次生まではこのパターンで冬にはスキー場に通い詰めました。自宅から40分くらいのスキー場に向けて朝7時ごろ出発し、8時半から滑って、14時くらいに帰宅、その後オンデマンドの授業を見て、バイトに行く生活をしていました。この時は1月の後期試験前にもスキー場に通っていたのでリフト上で勉強したりしていました（勉強の意味があったかは不明です（笑））。

ターニングポイントとなったのは3年次生の夏のシーズンでした。大阪キングスというジャンプを練習する施設に通い始め、Woot snowboard school というスクールでプロスノーボーダーの先生にジャンプを習いながら練習をしていました。施設には週3回程通っていたのでかなり上達し、最終的にはその冬のシー



ズン、スクールでコーチしないか？とお誘いを受けました。空き時間にはみんなで滑れると聞き、プロと一緒に滑れる機会なんて滅多にないと思って、二つ返事ですぐに引き受けました。3年次生から5年次生までの間は土日に岐阜県のスキー場へ車で行きインストラクターの仕事しながら滑り、毎回ナイターも滑ってから、月曜の授業に間に合うように帰ってくる生活をしていました。もちろんお金がないので片道6時間下道運転ですし、夜は車中泊で過ごす日々ですが、とても充実していました。そんな中、普通に滑るだけでなくバックカントリーというジャンルにも挑戦するようになりました。バックカントリーは雪山をリフトではなく自分の足で登り、1本滑ります。最長のハイクアップは5時間で、1000m以上標高を上げることもありました。ハイクはしんどいですし、雪崩など危険と隣合わせですが、それよりも命を預け合う仲間と頂上から見る景色は最高なのでやめられないです。

スノーボードと雪山に魅了され、大学に入学した時には考えられない交友関係、経験、バイタリティーを得ることができました。スノーボードが大きな柱となり、素晴らしい6年間の大学生活を送ることが出来たと思っています。ぜひ、大学生活がこれからも続く方は何か自身の柱となるものを見つけ没頭し、大学生活を楽しんでほしいと思います。



インタビュー記事も本学公式Webサイトに掲載しております。
ぜひご覧ください。

<https://www.kyoto-phu.ac.jp/news/detail.html?itemid=1584&dispnid=910&TabModule907=0>



■2026年度生涯研修プログラム 概要

2026年度の生涯研修プログラムをご案内します。2026年度は、アカデミックスキル基礎講座に「情報検索」「データのまとめ方」「データの比較」を新設し、全4講座を2日間で開講します。臨床推論ステップアップ講座は、入門編・実践編とも「心不全」を事例にリニューアルします。卒後教育講座は、昨年より対面とオンデマンドを組み合わせた受講しやすい開催方法で実施しています。詳細はQRコードから生涯教育センターホームページでご確認ください。

※本学学生は聴講無料ですので、ふるってご参加ください（4月以降manabaに掲載します）。



◇卒後教育講座 ※本学学生・教職員無料

<対面3講義>開催日程: 2026年7月26日(日) 10:00~16:00

開催場所: 京都薬科大学 愛学館3階A31講義室

<オンデマンド7講義>配信期間: 2026年6月1日(月)

定員: 200名 参加費: 12,500円 ~2027年2月28日(日)

認定単位: G24 計10単位(1単位/演題)

申込受付期間: 2026年4月1日(水)~7月13日(月)



◇アカデミックスキル基礎講座

<基礎1-1: 症例報告の書き方> <基礎1-2: 情報検索と利活用>

<基礎2-1: データのまとめ方> <基礎2-2: データの比較>

<基礎1>開催日時: 2026年9月6日(日) 9:30~12:50、13:00~16:30

申込受付期間: 2026年7月8日(水)~8月24日(月)

<基礎2>開催日時: 2026年9月27日(日) 9:30~12:50、13:00~16:30

申込受付期間: 2026年7月8日(水)~9月14日(月)

開催場所: 京都薬科大学 愛学館3階A32講義室

定員: 各50名(薬剤師限定)

参加費: 終日: 3,500円、半日2,000円

認定単位: G24 各2単位(半日)



◇臨床推論ステップアップ講座<入門編: 心不全> ※本学学生・教職員無料

開催日時: 2026年4月26日(日) 10:00~16:00

開催場所: 京都薬科大学 愛学館A31講義室&オンライン(Zoom)配信

定員: 対面100名 参加費: 6,500円 認定単位: G24 3単位

申込受付期間: 2026年2月25日(水)~4月13日(月)



◇臨床推論ステップアップ講座<実践編: 心不全>

開催日時: 2026年5月17日(日) 10:00~16:30

開催場所: 京都薬科大学 臨床薬学教育研究センター

定員: 20名(薬剤師限定) 参加費: 10,500円

認定単位: G24 3.5単位

申込受付期間: 2026年2月25日(水)~5月4日(月)



◇実務支援セミナー

開催日時: 2027年2月28日(日) 10:00~16:00

開催場所: 京都薬科大学 臨床薬学教育研究センター

定員: 20名(薬剤師限定) 参加費: 10,500円

認定単位: G24 4.5単位 ※事前eラーニング1単位含

申込受付期間: 2026年12月16日(水)~2027年1月31日(日)



◇eラーニング講座 ※本学学生・教職員無料

コース: ①全視聴コース、②当年度コース、③卒後コース、④漢方コース

参加費: ①30,500円、②22,500円、③20,500円、④24,500円

配信期間: 2026年6月1日(月)~2027年2月28日(日)

申込受付期間: 2026年4月1日(水)~2027年2月25日(木)



■現在、申込受付期間の2025年度生涯研修プログラム

◇「実務支援セミナー」 在宅医療における注射薬の設備導入とポイント

＊開催日時：2026年3月1日(日) 10:00～16:00

＊開催場所：京都薬科大学 臨床薬学教育研究センター

＊定員：20名（薬剤師限定） ＊参加費：10,500円（受講料10,000円、事務手数料500円）

＊申込受付期間：～2026年2月16日(月)

＊認定単位：4.5単位(事前eラーニング1単位含) 京都薬科大学認定単位G24

＊申込方法：生涯教育センターホームページよりお申込みください。 <https://skc.kyoto-phu.ac.jp/>



2025実務支援セミナー
申込ページ



京都薬科大学
生涯教育センター

■Lehmannプログラム

#目標は、薬学のエキスパート。
lehmann
プログラム

Lehmannプログラムは、
薬剤師のためのリカレント教育。

専門・認定薬剤師取得をサポートするため、
科学を基盤とした学び直しの機会を提供し、
円滑な医療推進、健康維持に貢献することを目指した
社会人向けの年間カリキュラムとして展開します。

■ 少人数制で丁寧な個別指導 ■ 講義と演習の体系的な学び ■ スクーリングは年8回(土・日)のみ ■ 充実のe-learning

Topics1

2026年度履修生募集中

出願期間：1月6日(火)・2月6日(金)必着
募集要項、プログラム日程など詳細は公式ページへ

Topics2

症例・データ検討会開催

▶ Lehmannプログラム履修生が1年間の学びの集大成を口頭発表

日程 2月14日(土) 9:10 - 16:45
会場 京都薬科大学 愛学館3F A32(予定)

見学希望の方は、下記の参加予約Formから申請をお願いします。
会場は出入り自由ですので、お気軽にご参加ください。

■お問合せ先：京都薬科大学 事務局 実務・生涯教育課

TEL：075-595-4677 FAX：075-595-4792

E-mail：s-center@mb.kyoto-phu.ac.jp

2025年度後期の試験日程は下表のとおりです。

※スケジュールは変更になる可能性がありますので、必ず最新状況をmanabaでご確認ください。

【後期試験等日程表】

年次	試験	試験期間	合格発表（予定）	受験手続日（予定）
6	アドバンスト薬学 本試験	1月7日(水)・1月8日(木)	1月15日(木)12:30～1月18日(日) Webによる公開	—
	アドバンスト薬学 再試験	1月26日(月)・1月27日(火)	2/10(火)12:30～ Webによる公開	1月15日(木)12:30～1月16日(金)
4	後期試験	1月7日(水)～1月9日(金)	1月19日(月)12:30～1月28日(水) Webによる公開	—
	後期再試験Ⅰ	1月29日(木)～2月2日(月)	2月12日(木)12:30～2月17日(火) Webによる公開	1月19日(月)12:30～1月22日(木)
	前期・後期再試験Ⅱ	2月18日(水)～2月27日(金) ※2月20日(金)を除く	3月12日(木) Webによる公開	前期科目 1月19日(月)～1月22日(木) 後期科目 2月12日(木)～2月15日(日)
	OSCE本試験	2025年12月13日(土)・14日(日)	未定	—
	OSCE追・再試験	3月6日(金)	未定	未定
	CBT本試験	1月15日(木)～1月16日(金)	未定	—
	CBT追・再試験	3月4日(水)	未定	未定
1～3	後期試験	1月14日(水)～1月22日(木)	2月4日(水)～2月17日(火) Webによる公開	—
	後期再試験	2月18日(水)～2月27日(金) ※2月20日(金)を除く	3月12日(木) Webによる公開	2月4日(水)～2月9日(月)

※詳細は決まり次第manabaでお知らせいたします。

単位互換制度 ～他大学の科目・講座を受けてみませんか～

【単位互換制度とは】

本学は公益財団法人大学コンソーシアム京都の単位互換制度に参加しています。単位互換制度とは、大学コンソーシアム京都に参加している京都府内を中心とした大学・短期大学が提供する科目を履修し、単位を修得すれば本学の単位「人と文化」として認定される制度です。2025年度は加盟校から335科目が提供されました。

修得した単位は、1年間1科目2単位まで（通年科目は1科目4単位まで）を限度として、卒業要件である「人と文化」の選択科目の、受講した年度の単位として加算されます。

他大学の授業を受講し、さらに学びを深めてみませんか？

なお、単位互換科目の取扱いについての詳細は、学修の手引きを参照して下さい。

【単位互換制度の魅力】

1. 講義科目は文化・芸術・政治・自然科学などほぼ全ての学問分野にわたる科目が提供されています。
2. 講義形態は持出講義、既存講義があり、持出講義は「キャンパスプラザ京都」（京都駅前）にて集中講義や土曜日・夏季休暇期間に開講されるなど、他大学生でも受講しやすいよう工夫されています。
3. オンデマンド科目もあります。
4. 講義を受講することにより、他大学生との交流の機会が広がります。
5. 受講生は単位互換履修生として、科目開設大学の図書館等を利用することができます。
6. 全ての科目を無料で受講できます。ただし、科目によっては参考書・テキスト代等が必要な場合があります。

【受講方法】

3月上旬に大学コンソーシアム京都Webサイトにシラバスが掲載されます。前期・夏季集中・後期科目とも3月中旬から出願受付が開始されますのでWeb上で登録・出願し、ダウンロードした出願票を教務課に4月初旬に提出して下さい。出願票の提出期限はmanabaで通知します。

<単位互換・京カレッジポータルサイト><https://tg-kyoto.consortium.or.jp/>

上記URLからは科目開講時に休講・補講・試験等の連絡事項も閲覧することができます。



大学コンソーシアム京都

■ ChatGPT相談の利点とリスクについて

新しい年が始まりました。新年の抱負をたてたり、「こんな自分になるぞ」と自身に誓ってみたり、今は新しいことへのチャンレンジに向かいやすいタイミングです。

みなさんは、どんな一年にしたいと考えているでしょうか。

さて、最近では、自分の考えをまとめたい時、わからないことを調べたい時、悩み事を相談したい時、ChatGPTを活用しているという人も少なくないようです。例えば、冒頭に挙げたような「目標設定を打ち立てること、そして、それを達成するための手段や計画」についても、ChatGPT等の生成AIに相談すると、たとえば思いつきのバラバラとした短文の内容でも、入力すれば素早く自分が考えていることをまとめてくれたり、手段や計画についても即座に提案してくれたりします。その存在は心強く非常に便利で今やなくてはならないと感じている人は少なくないかもしれません。

自分自身も利用することはありますが、とても便利であると感じる一方、リスクもしっかり把握する必要があります。昨年、アメリカで16歳の息子の自死にChatGPTが関与していたとする訴訟は記憶に新しいですが、使い方によっては、人の生死に影響してしまうような可能性すらあるのです。

対話型であること、サポーターかつ否定をしない関わり方をすることで、相談事を親身になって考えてくれているような感覚を引き起こす対応になっていますし、実際のところ、かなりの確かなアドバイスをくれると感じる面が多々あります。また、リアルな人間関係のように、「相談して負担だと思われないかな」とか「いつも自分の話ばかりして申し訳ないな」等、相手の心情を慮ったり、関係性におけるギブアンドテイクのような複雑なことを考えたりしなくても良いという手軽さが魅力となっているところもあるでしょう。一方で、自分を常に肯定してくれる安心と心地よさの弊害として、視野が狭くなったり、偏った考え方に拍車がかかってしまったり、実際の人間関係との距離を置いてしまったりということにつながる場合があります。

ChatGPTをはじめとする生成AIの活用は、これからの時代において非常に重要となっていきますが、そのリスクの把握をすること、そして、手軽さ、便利さ、心地よさ等と引き換えに失うものが何かという視点を忘れずにいる必要があります。

(臨床心理士 上野みな子)

■ 学生相談室のご案内

学生生活の中で問題や悩みに出くわしたとき、独りで抱え込むのではなく気軽に相談室をご利用ください。

相談は臨床心理士・公認心理師の資格を持つカウンセラーが担当し、学業、進路、課外活動、将来、対人関係、性格、家族、心身の健康についてなど、事の大小に関わらず学生生活に関わる様々な悩みや問題について幅広い相談をお受けしています。学生ご本人だけでなく、保証人や教職員の方からの相談も可能です。

● 相談申込み・問合せ先

学生相談室 育心館 4階

相談を希望される方は下記申し込みフォームまたはメールにて予約をお願いいたします。相談は無料です。なお、対面相談のほかに、オンライン相談（電話またはTeamsの音声通話）も実施しております。相談方法につきましてはカウンセラーにご相談下さい。その他詳細はお問合せ下さい。

- ・開室（受付）時間：月～金 8:45～17:15
- ・学生相談室メール：gakusou@mb.kyoto-phu.ac.jp
- ・電話：(075) 595-4672（建部） / (075) 595-4686（上野）

申込フォーム：<https://www.kyoto-phu.ac.jp/contact/support.html>



■ シナジーラボの末吉真梨さんが報告した学术论文がBiol. Pharm. Bull. 誌のHighlighted paper selected by Editor-in-chiefならびにFeatured Articleに選出されました

シナジーラボ 博士課程4年次生 末吉真梨さんが報告した学术论文がBiol. Pharm. Bull. 誌のHighlighted paper selected by Editor-in-chiefならびにFeatured Articleに選出されました。

【タイトル】

Stimulation of $\alpha 7$ Nicotinic Acetylcholine Receptors by PNU282987 Demonstrates Efferocytosis-Like Activation and Neuroprotection in Human Models of Microglia and Cholinergic Neurons under the Pathophysiological Conditions of Alzheimer's Disease

【著者名】

Mari Sueyoshi, Koki Harada, Masaki Okawa, Teruki Matsuhara, Momona Ando, Riona Araki, Yuka Minote, Keiichi Ishihara, Shun Shimohama, Kazuyuki Takata

【掲載巻号】

Biol. Pharm. Bull. Volume 48 No. 7 Pages 972-985. 2025

論文掲載サイトhttps://www.jstage.jst.go.jp/browse/bpb/_contents/journal-featured-articles/-char/en

■ 生薬学分野の濱井 美歩さんが第42回和漢医薬学会学術大会において優秀発表賞を受賞しました

2025年8月23日（土）・24日（日）に開催された第42回和漢医薬学会学術大会において、生薬学分野の博士課程1年次生 濱井 美歩さんが優秀発表賞を受賞しました。

受賞：生薬学分野 博士課程1年次生 濱井 美歩

演題：タンジン(Salvia miltiorrhiza) 細胞に対しcryptotanshinone 産生促進作用を示す内生真菌代謝産物の探索

演者：濱井美歩, 月岡淳子, 太田智絵, 中村誠宏, 松本崇宏

■ 薬物治療学分野の徳山 瑠雅さんが生体機能と創薬シンポジウム2025仙台において、ポスター優秀発表賞を受賞しました

2025年8月28日（木）・29日（金）に開催された生体機能と創薬シンポジウム2025仙台において、薬物治療学分野博士課程4年次生の徳山 瑠雅さんがポスター優秀発表賞を受賞しました。

受賞：薬物治療学分野 博士課程4年次生 徳山 瑠雅

演題：オーファンGタンパク質共役型受容体GPR35の大腸炎に対する保護的役割

演者：徳山 瑠雅, 安田 浩之, 斉藤 美知子, 林 周作, 加藤 伸一

■ 薬物治療学分野の林 周作准教授が令和6年度日本薬学会薬理系薬学部会奨励賞を受賞しました

薬物治療学分野の林 周作准教授が令和6年度日本薬学会薬理系薬学部会 奨励賞を受賞し、生体機能と創薬シンポジウム2025仙台において受賞講演を行いました。

受賞：薬物治療学分野 准教授 林 周作

演題：炎症性腸疾患に対する新規治療戦略の開拓を目指した病態生理学的研究

■ 生薬学分野の荒木 康佑さんが第42回日本植物バイオテクノロジー学会において、学生優秀発表賞を受賞しました

2025年9月5日（金）～7日（日）に開催された第42回日本植物バイオテクノロジー学会において、生薬学分野の博士課程1年次生 荒木 康佑さんが学生優秀発表賞を受賞しました。

受賞：生薬学分野 博士課程1年次生 荒木 康佑

演題：薬用植物アマチャ由来ジヒドロイソクマリン類の効率的生産法の開発研究

演者：荒木康佑, 高見朋花, 太田智絵, 月岡淳子, 中村誠宏

■ シナジーラボの吉川 勇人さんが第19回次世代を担う若手のための医療薬科学シンポジウムにおいて、優秀発表賞を受賞しました

2025年9月7日（日）に開催された第19回次世代を担う若手のための医療薬科学シンポジウムにおいて、シナジーラボの博士課程2年次生 吉川 勇人さんが優秀発表賞を受賞しました。

受賞：シナジーラボ 博士課程2年次生 吉川 勇人

演題：ヒト人工多能性幹細胞由来コリン作動性神経を用いたアルツハイマー病治療薬スクリーニング系の構築

演者：吉川 勇人¹, 吉田 依未¹, 松本 崇宏², 高田 和幸¹

(¹京都薬大・シナジーラボ、²京都薬大・公衆衛生学分野)

■ 生薬学分野の太田 智絵講師が日本生薬学会第71回年会において令和7年度日本生薬学会 学術奨励賞を受賞しました

2025年9月14日（日）・15日（月）に開催された日本生薬学会第71回年会において、生薬学分野の太田 智絵講師が令和7年度日本生薬学会 学術奨励賞を受賞しました。

受賞：生薬学分野 講師 太田 智絵

演題：熱帯・亜熱帯植物を素材とした新規機能性小分子の探索研究

演者：太田 智絵

■ 日本生薬学会第71回年会において、本学の学生2名が優秀発表賞を受賞しました

2025年9月14日（日）・15日（月）に開催された日本生薬学会第71回年会において、本学の学生2名が優秀発表賞口頭発表の部を受賞しました。

受賞：シナジーラボ 博士課程2年次生 吉川 勇人

演題：天然由来低分子化合物によるヒト人工多能性幹細胞由来コリン作動性神経を用いたアルツハイマー病治療薬スクリーニング

演者：吉川勇人¹、吉田依未¹、高田和幸¹、松本崇宏²（¹京都薬科大学 シナジーラボ、²京都薬大 公衆衛生学分野）

受賞：生薬学分野 博士課程1年次生 濱井 美歩

演題：タンジン(Salvia miltiorrhiza) 細胞に対しcryptotanshinone 産生促進作用を示す内生真菌代謝産物の探索

演者：濱井美歩¹、月岡淳子²、太田智絵¹、中村誠宏¹、松本崇宏³

（¹京都薬大 生薬学分野、²京都薬大 薬用植物園、³京都薬大 公衆衛生学分野）

■ 生薬学分野の太田 智絵講師が第25回天然薬物の開発と応用シンポジウムにおいて、令和7年度日本薬学会生薬天然物部会奨励研究賞を受賞しました

2025年10月11日（土）・12日（日）に開催された第25回天然薬物の開発と応用シンポジウムにおいて、生薬学分野の太田 智絵講師が令和7年度日本薬学会生薬天然物部会奨励研究賞を受賞しました。

受賞：生薬学分野 講師 太田 智絵

演題：生殖機能および細胞代謝機構を標的とした薬用植物由来機能性成分の探索

演者：太田 智絵

■ 本学の学生6名が第75回 日本薬学会関西支部総会・大会において優秀発表賞を受賞しました

2025年10月4日（土）に開催された第75回 日本薬学会関西支部総会・大会において、本学学生6名が優秀発表賞を受賞しました。

【優秀口頭発表賞】

受賞：薬剤学分野 6年次生 吉永 紗桜

演題：ニトロソ化とニトロソパースルフィド化ヒト血清アルブミンによる抗腫瘍効果の比較検討—抗腫瘍効果の比較検討—

演者：吉永紗桜、井上理久、岡田紗季、小林勇揮、前田仁志、異島優

受賞：薬品製造学分野 4年次生 伊豆藏 真由

演題： α -イソシアノアセトアミド誘導体を用いたアンモニア-Ugi 反応の開発と高度に立体混雑なペプチドの合成

演者：伊豆藏真由、榎見怜加、南部寿則、友原啓介

【優秀ポスター賞】

受賞：薬品化学分野 4年次生 中橋 花菜

演題：小型ルシフェラーゼpi cALucの化学合成とフォールディングプロセスの精査

演者：中橋花菜、佐藤志乃、岩本直也、大石真也

受賞：薬品化学分野 5年次生 西垣 将志

演題：腫瘍壊死因子TNFの合成研究

演者：西垣将志、上野優、岩本直也、大石真也

受賞：生薬学分野 4年次生 藤 小晴

演題：環拡大反応を用いたベツリン誘導体の合成とそれらのがん幹細胞に対する駆逐作用

演者：藤小晴、田中珠美、原みなみ、荒木康佑、太田智絵、中村誠宏

受賞：細胞生物学分野 4年次生 宮隅 祐太

演題：B型肝炎ウイルス様粒子を用いた肝細胞への薬物・遺伝子送達キャリアの調製法の開発

演者：宮隅祐太

新聞掲載記事については本学ホームページよりご覧いただけます。

<https://www.kyoto-phu.ac.jp/compendium/paragraph/>



下記の方々からご寄附をお寄せいただきました。ご協力ありがとうございました。

* 敬称略、芳名のみ掲載しております。

* 100万円以上を頂いた方は、愛学館エントランス『京都薬科大学 高額寄附者顕彰銘板』にも掲載させていただきます。

2025年9月～2025年11月にご寄附をお寄せいただいた方（五十音順）

< 卒業生・同期会等 >

浅野 元
浅野 清子
大原 松雄
尾花 理徳

菅 康文
鈴木 宏樹
中森 省吾
細見 光一

吉川 美和
李 智明

< 卒業50周年記念募金 >

岡田 文子
奥田 聡子
長岡由美子

平松 照司
渡 雅克

< 企業・団体・一般 >

株式会社ぼうしや薬局

神田 悟

< 法人役員・評議員・職員等 >

赤路 健一（学長）

串田 ゆか（理事）

（2025年11月30日現在）

■ ご寄付のお願い

本学では皆様からのご寄付で様々な支援を行っています。

引き続き温かいご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

詳細は本学公式Webサイトよりご覧ください。 <https://www.kyoto-phu.ac.jp/compendium/contribution/>



KPUnews No. 224

2026年1月発行／編集：KPUnews編集委員会

発行：京都薬科大学 〒607-8414 京都府京都市山科区御陵中内町5 ☎075-595-4691（企画・広報課）

※本誌掲載の文章及び写真の無断転載を禁じます。